

「大地の子」の新たな旅

東京原告団の田中文治さんは身元未判明。帰国前、牡丹江市体育学院校長の頃、2度にわたり山崎豊子さんの取材を受けたという異色の人。

井出 孫六

敗戦時、推定5歳。林口県古城鎮駅に父と子が辿り着いたとき、すでに母と妹の姿はなく、槍や棒を持つ集団に囲まれ、縛られた父が撲り倒されるのを震えながら見た。



「子供には罪はないぞ」と、集団のボスにかけあって救い出してくれた最初の養父の勇氣。半年後に預けられる2番目の養父母の王貴林夫妻の慈愛に充ちた優しさ。

揚げ菓子・麻花の行商の傍ら、王文志と名づけた異国の子の病める体と心を癒やす良薬を探し求める日々。その甲斐あって、めっきり発達し

た身体能力が、王少年の将来を方向づけていく。選ばれてハルピン体育学院を卒業後、牡丹江市体育学院のコーチ兼教師の道が開かれ、4000メートルハードル52秒の新記録が出た。

記録の前に差別や偏見は影をひそめ、文革の嵐さえ2年ほどで通り過ぎて、孤児には閉ざされていた入党の道さえ開かれた。

日本から取材に来た女性作家に、王文志校長は「私は日本人孤児ですが、中国の人々が第2の命を与えてくれました」と答えた。

「あなたは日本人なのに、日本に帰りたくないの？」という反問が王文志校長の胸に突き刺さった瞬間から、「大地の子」のもう一つの辛酸の旅が始まることになる。(作家)